

新年のごあいさつ



日本遺族会会長
参議院議員

水落敏栄

ご遺族の皆様にはお元気で新しい年をお迎えのことと拝察いたします。天皇皇后陛下におかれては、昨年のペリリュー島への訪問に続いて、本年一月、海外戦没者数最多五十二万人が戦没されたフィリピンへの訪問を発表されました。

面陛下が常に戦没者とその遺族に、心を寄せていただいていることに、遺族を代表し心より感謝を申し上げます。

私事ですが、全国のご遺族皆様のご支援を賜り、国会にお送りいただき、早十一年半となりました。この間、妻の特別給付金、

特別弔慰金の継続増額、ご遺骨の帰還促進の為の議員立法等、ご遺族皆様の処遇改善等に加え、文部科学大臣政務官、二度の参議院文教科学委員長を拝命し、教育、文化の振興等にも携わらせていただきました。これも偏にご遺族皆様のご支援の賜物と厚くお礼申し上げます。

心より感謝申し上げます。また六月には日本遺族会会長を仰せつかりました。戦後七十年の節目の年に、社会的にも大変責任の重い大役をお引き受けし、身の引き締まる気持ちで一杯です。

遺族会の今後最大の課題は後継者の育成です。日本遺族会では、昨年三月に青年部結成に向けた初の全国研修会を開催し、十一月には女性部と合同の研修会を開催、それに呼応するように各都道府県では、青年部の研修会が開催されました。

しかし、青年部の結成には各都道府県で温度差があることは否めません。平和で豊かな時代に育った世代が、飢えと貧困がはびこり、死と隣り合わせの時代に思いを馳せるのはとても難しいこととでしょう。平和学習の一環で学校に戦争体験を話しに訪れた遺児の方が、「日本はこの国と戦争したのですか?」「赤紙はなぜ拒否できないのですか?」といった子供たちの質問に面食らったとお話されていました。それほど意識が違うの

です。しかし、各地の青年部研修会の参加者の真剣な眼差しには希望を感じています。

遺族会の活動とは、戦争の悲惨さ平和の尊さを語り継ぎ、恒久平和な社会の実現を目指すものです。平和とは、人間の命の尊厳を守ることであり、普遍的テーマであります。命を尊ぶ社会となれば、おのずと戦争、紛争は勿論、いじめなどもなくなると思います。だからこそ、私たちの活動には大義があります。

私は戦後一貫して世界

の恒久平和を希求し活動してきたこの尊い組織を、次世代へ繋げるために、青年部の組織化に力を尽くして参ります。そして、私たちのような遺族を二度と作らないために、遺族の声を国政に届け続け、平和の灯を守り続ける覚悟でございますので、引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、ご遺族皆様のご健康と平成二十八年がより良い年でありますことを心から祈念しご挨拶いたします。